



会員増強・新クラブ結成推進月間

コロナウイルスの感染が、ウイルスの変異が止まらず収束を見せない状況の中、新年度がスタートしました。一昨年12月から一年半が経過しましたが、昨年度のカバナーはこの新常態に対応すべく果敢に新しい地区運営に尽力され、文字通りホルガー・クナーク前RI会長テーマ「ロータリーは機会の扉をひらく」を實踐してこられました。3大研修やクラブ公式訪問もリアル、オンライン、ハイブリッドなど工夫を凝らして開催されました。地区大会も中止の判断をされた地区もあり、リアルで開催できた地区は限定されました。また、楽しみにしていた台北での国際大会も2年連続でバーチャルでの開催を余儀なくされ、地区内会員が一堂に会し、日ごろの活動を振り返り、アイデアを交換し、友情を確かめ合い、親睦を深めることも思うようにできませんでしたが、新しいアイデアのもと様々な奉仕活動やクラブ・地区運営などが実践され、今年度につながるものと期待しています。クラブにおいても同様でしたが、いち早くこの新常態に合わせたクラブ運営に切り替え、従前より活発に活動をされているクラブも数多くあります。オンライン例会ならではの利点を活かし、卓話講師の枠を上げたり、ネットワークを活かしてクラブ、地区を超えた奉仕活動を実践されているクラブも数多く見られます。2680地区大会はバーチャルでしたが、サプライズ演出で花火1000発を打ち上げられ、閉塞感の強い地域社会に一服の清涼感をもたらし、NHK関西にて取り上げられ、公共イメージの向上に大きな役割を果たしました。また、2750地区ではポリオ撲滅JAZZチャリティコンサートを開催し、大きな寄付を集めることに成功し、この取り組みもNHK関東で取り上げられました。さらに2510地区大会はバーチャルでしたが、工夫を凝らし、YouTubeにて地区大会の裏番組ともいふべき、解説とゲストによる対談などを放映して地区内会員に対してロータリーの知識や楽しみ方などを伝えることが出来ました。困難な状況のなか、このように積極的にアイデアを出し合い前に進んでいく姿勢こそ、今最も必要とされていると思います。それには、地区においてはカバナー、クラブにおいては会長の強い思いとリーダーシップが不可欠です。地区もクラブもこの新常態に合わせ、ビジョンを持ち行動することが求められています。夢のある者、目標があり、目標のある者、行動があるという言葉がありますが、ロータリーでも同じことが言えると考えます。クラブにおいては、会長のリーダーシップのもとクラブ会員全員参加で行動計画を作成し、実践・行動していただきたいと考えます。改めて言うまでもなく、8月は会員増強・新クラブ結成推進月間です。活発な活動を通じて良い仲間を迎え入れましょう！

第2地域 ロータリーコーディネーター 水野 功（東京飛火野RC）

7つ目の重点分野「環境」

みなさんは、ロータリーの6つの重点分野に7つ目として「環境」が加えられたことをご存知でしょうか。今年度からこの分野のプロジェクトもロータリー財団のグローバル補助金申請の対象となっています。

6月号の『ロータリーの友』によると、このことが発表されたのは2020年6月でしたが、マーク・マローニ元RI会長は当時を振り返って、「ロータリアンやローターアクター、一般の人々を対象とした調査によると、「環境」が関心事のトップ5に入っていて、特にロータリーの候補者といえる一般の人々には、「環境」は第一に取り組むべきこととなっていました。」と述べていらっしゃいます。

「ロータリーのビジョン声明」を達成するための「行動計画」には四つの優先事項がありますが、そのうちのひとつは ●「参加者の積極的なかわりを促す」となっています。会員の関心が高い「環境」が重点分野に入るとは、会員の参加意欲も沸いてくるわけで、「行動計画」の目指すところとも一致することになります。クラブが「環境」にかかわる奉仕プロジェクトを実施することで参加者が増えれば、クラブの活性化につながります。みなさんのクラブでも、「環境」にかかわる新しい奉仕プロジェクトをスタートさせることを視野に入れてみてはいかがでしょうか。日本がプロジェクト実施国となつて行えるグローバル補助金プロジェクト実施の可能性も、他の重点分野に比べて高いように思います。

重点分野に「環境」が加わることは、ロータリーの公共イメージ向上の上でも、「世界を変える行動人キャンペーン」の展開に大きなプラスとなります。ロータリーは何をしているのですか？という問いに、ポリオ根絶や紛争の解決、教育支援に加えて、「環境」にも取り組んでいることがわかれば、ロータリーをより身近に感じ、共感を持つ人が増えるだろうと思われまふ。

ロータリアンは「他者を思いやる心」を持って行動しています。その「他者」とは、たまたま隣に居合わせた人、仕事で関わる人々、自分の身近な地域社会の人々、この地球上に同じ時代に生きるすべての人々だと思っています。しかし、地球の環境を考える時、そこには私たちの子供、孫の世代、さらには何世紀も先の未来の人々も含まれるのだと気づかされます。わたしたちが目指す持続可能なよい変化は、地球の未来に続く道となります。

第2地域 ロータリー公共イメージコーディネーター 服部 陽子（東京広尾RC）